

(様式1) 学校評価 <評価:A(1・2) B(3) C(4・5) 数字はアンケート結果を加味する場合>

項目	重点目標 (○:市の重点目標 ◇:学校の重点目標)	キーワード	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の 意見等
学校運営	教育課程 ○特色のある教育課程を工夫するとともに、PDCAサイクルを意識し、評価改善に努める。 ◇特色ある学校づくり 〈前期改善プラン〉 PDCAサイクル	カリキュラムマネジメント PDCAサイクル 社会に開かれた教育課程 教科等横断的な視点	○PDCAサイクルを意識して、各行事の改善が図られている。 ○学校行事や学年行事等の計画を立てる際は、担当者同士で話し合い、確認しながら行われている。 ○昨年度の反省を生かし、朝の活動開始時刻を5分遅らせたことにより、朝の活動(読書)が充実した。 △高学年が中心となり児童会活動をさらに活性化させる。 △本校の特色が明確でなく、保護者に周知されていなかった。	B	・PDCAサイクルを意識した評価改善を引き続き実施し、次年度の計画に生かす。 ・計画的に集会活動ができるように教育課程(年間計画)に位置づける。 ・教職員自己評価や保護者アンケートの結果や地域素材をもとに本校の特色を洗い出し、教育課程に位置付ける。	※目標を立てる際に、だれが、いつまでに、どのようなことを行うのかを明確に示すとよい。 ※取組状況を記入する際は、具体的な数値を入れると読む人がわかりやすい。 ↓ 次年度は、上記の2点を参考に取り組んでいく。 ・学校評価改善プランを資料として追加し、具体的な改善策を伝える。
	組織運営 ○校務のバランスを考えた人材配置に努める。 ◇教職員の指導力の向上 〈前期改善プラン〉 働き方改革(業務改善)	サービスの厳正の徹底 適材適所 研修の充実 働き方改革	○校務分掌内で役割分担をし、チームで校務に当たる体制を構築することができた。 ○各種アンケートをICTを活用したことで集計作業の手間が省け、業務削減につながった。 ○欠席等の連絡にICTを利用することで、朝の電話連絡が減少した。また、全職員が欠席児童等を把握しやすくなった。 ○サービスの厳正について職員研修を行い、不祥事防止に努めている。	B	・先進校の取組を参考に、できることを全職員で検討し、実践につなげる。	
	環境整備 ○校内外の整理整頓、環境整備に努める。 ◇安心安全で潤いのある学校環境の整備 〈前期改善プラン〉 清掃分担箇所の見直し	施設利用 安全点検 教室配置	○教職員による日々の安全点検や教室環境調査、PTA奉仕作業、業者による修繕等を実施し、安心安全な学校環境を整備することができた。 △グリーン活動やPTA奉仕作業での除草作業を行い、花壇や校庭の整備を行ったが、除草が間に合わず、薬剤を散布しなければならないことがあった。 △清風園、清風台の環境整備が不十分である。	B	・清掃活動や除草作業等については、地域ボランティアや保護者の方の協力を得ながら行い、学校環境整備をさらに進めていく。 ・地域ボランティアや保護者の方の協力を得ながら清風台の環境整備を進める。	・PTAや地域ボランティアの力を借りて、環境整備を進めるとよい。 ↓ ・来年度、地域学校協働本部の組織を活用していく。
	地域連携 ○地域連携教員を要として、地域とともにある学校づくりに努める。 ◇地域とともにある学校でづくり ◇誠意ある接遇 ◇学校運営協議会 〈前期改善プラン〉 外部人材・ボランティアの活用	学校を核とした地域づくり 地域とともにある学校 コミュニティ・スクール 地域コーディネーター	○地域コーディネーターの協力を得ながら、効果的な外部人材の活用を図ることができた。外部人材の専門的な指導で児童の学習意欲が向上している。(社会科、理科、生活科、音楽科、家庭科、総合的な学習の時間等) △地域連携活用一覧を見直し、次年度に引き継ぐ準備を進める。	B	・来年度も地域連携教員を中心に、地域ボランティアを必要とする学習活動等を年度始めに確認し、協力を依頼する。 ・地域学校協働活動について、教職員の理解を深めるために、情報を提供する。	

知の教育	各教科指導・学習指導等	<p>○学ぶ意欲を引き出し、主体的に学ぶ児童生徒の育成に努める。</p> <p>◇主体的・対話的で深い学びを目指す</p> <p>◇確かな学力と豊かな言語力の向上</p> <p>〈前期改善プラン〉 授業改善 表現力の育成</p>	主体的・対話的・深い学び	<p>○学習指導主任を中心に研究授業や授業研究会を実施し、授業改善に取り組んだ。</p> <p>○指導力向上に向けて、学力向上コーディネーターや学力向上推進リーダーと連携して進めることができた。</p> <p>○2学年以上の算教科の授業で、T・Tや習熟度別学習、少人数学習を実施し、個に応じた指導、支援を行った。</p> <p>○2学期から表現力育成に向け「ことばタイム」を実施した。児童の表現力が徐々に向上している。</p> <p>○学年内教科担任制を実施し、複数の教員で学習指導にあたることができた。</p>	A	<p>・今後も教職員の授業改善、指導力向上に向けた研修を校内研修に位置づけ、計画的に実施していく。</p> <p>・学年内教科担任制をさらに推進していく。</p>	<p>・チームティーチングは他の学校でも行っているのか。</p> <p>↓</p> <p>・行っている学校が多い。</p>
	情報教育	<p>○一人一台の情報端末の有効活用に努める。</p> <p>◇GIGAスクール構想の推進</p> <p>◇学校教育の情報化の推進</p> <p>〈前期改善プラン〉 ICT研修</p>	プログラミング教育 情報活用能力	<p>○まなびPCを授業に活用することができた。(スマイルドリル、発表用スライド作成等での活用)</p> <p>○学級担任会等で、情報スキルプチ研修を行うことで、教員のスキルが向上している。</p> <p>○児童のICT活用力が向上している。</p> <p>△まなびPCの使い方の約束が守れない児童がいるので、その都度、約束の確認をしている。</p>	B	<p>・ICT活用方法のための研修を学級担任会等で実施する。</p> <p>・情報モラル教育を行い、使用方法の約束を確認する。</p>	<p>・まなびPC使用の約束を守ることができない児童はどのような使い方をしているのか。</p> <p>↓</p> <p>・学習以外の目的で使用してしまうことが多い。その都度、指導をしている。</p>
	国際理解教育	<p>○英語に触れ、世界を学ぶことで、豊かなコミュニケーション能力の育成に努める。</p> <p>◇多文化共生に向けた教育の推進</p>	SDGs 異文化理解 英語コミュニケーション	<p>○英語専科教員やALTIによる授業実践やオンラインALTの実施により、児童の異文化理解やコミュニケーション能力が高まっている。</p> <p>△外国籍児童への個別指導を充実させるための教員が必要である</p>	A	<p>・異文化理解については、外国語科(外国語活動)のみならず、他教科、他教育活動との関連を図りながら実施できるように努める。</p> <p>・外国籍児童への日本語指導を充実させるための人員確保を市教委へ要望していく。</p>	
心の教育	児童・生徒指導	<p>○自己指導能力の育成を図り、課題を解決できる児童生徒の育成に努める。</p> <p>◇あいさつと規範意識の向上</p> <p>◇学業指導の充実</p> <p>◇豊かな心の育成</p> <p>〈前期改善プラン〉 あいさつと規範意識の向上 望ましい集団づくり</p>	いじめ 不登校 自己指導能力 キャリア教育	<p>○生活委員や各学級での取組により、元氣な挨拶ができる児童が増えてきているが、高学年になるにつれて挨拶ができない児童が多い傾向である。</p> <p>○hyperQUの結果を分析し、学校・学級生活への不適応、不登校、いじめ被害の可能性の高い児童を早期に発見し、適切な支援策を複数の教職員で検討し、対応してきた。</p> <p>○児童の悩みやトラブル等の対応が適切に行われる体制が構築されている。</p> <p>△不登校傾向児童、不登校児童が増加傾向にある。</p>	B	<p>・児童会を中心としてあいさつ運動と家庭への啓発を今後も根気強く行っていく。</p> <p>・不登校児童に対しては、今後も保護者、関係機関と連携しながら、適切な指導、支援をしていく。</p>	
	特別支援教育	<p>○共生社会に向け、自分の意見を持ち、他者の意見を認め合う雰囲気づくりに努める。</p> <p>◇特別支援教育・インクルーシブ教育システムの充実</p> <p>〈前期改善プラン〉 インクルーシブ教育の推進</p>	インクルーシブ ユニバーサルデザイン 合理的配慮 自立活動	<p>○インクルーシブ教育についての研修をにより、教員のインクルーシブ教育への理解が深まっている。</p> <p>○交流学級での学習を充実させるために、担任同士が情報交換し、合理的配慮を検討しながら指導できるよう努めている。</p> <p>△多人数学級では、十分な個別指導に限界がある。</p>	B	<p>・今後も児童一人ひとりの特性に応じた支援や配慮を行う。(合理的配慮)</p> <p>・誰もが安心し、落ち着いて学習できる教室環境を行うとともに、個別指導をさらに充実させるために、適切な教員数を市教委に要望していく。</p>	

命の教育	健康教育	<p>○自分の健康を管理し、健やかに生活する児童生徒の育成に努める。 ◇体力づくりの推進 ◇健康的な生活習慣の形成</p> <p>〈前期改善プラン〉 生活リズムの改善 外遊びの充実</p>	保健教育 保健管理	<p>○持久走週間やなわとび週間、共遊など児童が屋外に出て体力づくりに取り組む活動が計画的に実践できた。 ○生活リズムががんばり週間を年3回設定し、実施した。家庭と連携、協力することで生活リズムの再確認と意識化を図ることができた。 △メディア(YouTube、ゲーム等)の使用時間が学年が上がるにつれて増加傾向にある。 △高学年になるにつれ、外遊びを好まない傾向にある。</p>	B	<p>・メディアの利用に関しては、学年懇談会や個人懇談、学校だより等で家庭に協力依頼したり、学活や保健学習で指導する。 ・運動することの楽しさを感じることが出来る取組を児童主体で実施していく。</p>
	安全教育	<p>○危機意識を高め、安全な生活について判断・実践できる児童生徒の育成に努める。 ◇安全指導の徹底</p> <p>〈前期改善プラン〉 熱中症対策の徹底</p>	危機管理 生活・交通・災害安全	<p>○計画的に避難訓練を実施し、災害時の基本的な対応の仕方を確認できた。 ○熱中症対策のために、水筒持参、こまめな水分補給、WBGTによる屋外運動の禁止等呼びかけた。 ○指導者を招いた実技研修を実施し、教職員の危機管理意識の向上を図った。 ○児童による安全点検を実施した。児童目線で危険箇所を確認することができ、効果的であった。</p>	A	<p>・児童の安全を第一に考えた熱中症対策を徹底する。(WBGT指標を活用した熱中症対策) ・危機管理マニュアルを定期的に見直していく。</p>
	食に関する指導	<p>○食への関心を高め、健康維持に励む児童生徒の育成に努める。 ◇食育・学校給食の充実</p> <p>〈前期改善プラン〉 アレルギー児童対応</p>	給食管理 アレルギー	<p>○学校給食センターと連携を図り、食物アレルギー児童への対応を丁寧に行い、事故防止に努めることができた。 ○食物アレルギー児童のための研修を(エビペン研修)を実施した。 ○学級担任と栄養教諭が連携し、食育指導を実施した。 ○ご飯粒を残さない指導を行うことで、食べ物を粗末にしないという意識が高まった。 △食事のマナーが身につけていない児童がいる。</p>	B	<p>・アレルギー児童への対応を複数職員で行う。 ・食育指導をさらに充実させる。</p>